

平成二十七年四月から、前野村町会長の後を引き継ぐことになりました。副町会長を二期四年務めさせていたばかり、いろいろ経験させていたが、なかなか町会長の重責を担えるかどうか心配ですが、一生懸命頑張りたいと思います。

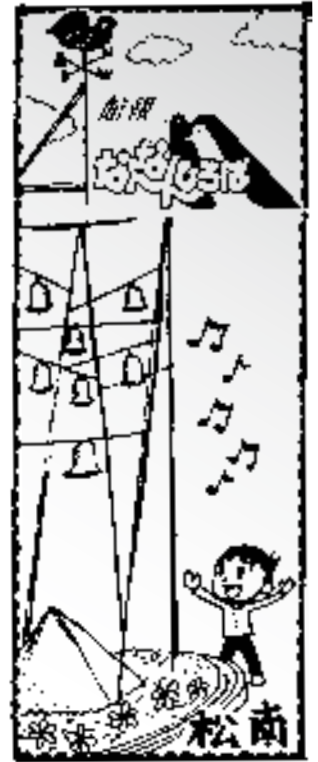
**南松本
一丁目町会長**



中田 清和

新しい年度を迎え、松南地区の町会長、地域協議会の団体のいくつかで役員交代がありました。福祉ひろばや、なんなんひろば周辺の修景が大きく変動するなか、躍進する松南地区を支えていただく方々を紹介します。

よろしく願います。



この度、宮田中町会会長に就任しました川井洋司と申します。仕事の関係で国内海外など多くの地域を回り、偶然にも育った藤沢市と姉妹都市である松本市の宮田に十年前転居いたしました。昨年、宮田中町会副町会長を務めたのが初めての町会に関わりであり、まだまだ経験不足ですので、町会の皆様、及び諸先輩方のご協力、助言を頂きながら町会及び地域のお役に立てますよう努力する所存です。よろしく願います。

宮田中町会長



川井 洋司

「二日、一声、声かけ運動」は、当町会のスローガンです。何卒よろしくご指導のほど、お願い申し上げます。



勤労青少年ホーム所長
田中 光雄 (右)
松南地区公民館
谷中 景太

なんなんひろばは、松南地区公民館、南部図書館、松本勤労青少年ホーム、南部体育館の複合施設ですが、新任となった職員を紹介します。

なんなんひろばから

この度、四月の異動で島内保育園から南松本保育園へ着任した瀧澤恵美子です。南松本保育園は三十七年前に、私が初めて保育士になった時に二年間勤めていました。あの頃は、平屋の市営住宅が西側にあり、子供たちとかくれんぼをして遊びました。プールもありました。懐かしいこの保育園でまた、保育ができること、とても嬉しく思っています。地域の子育て拠点としての役割を果たせるように頑張ります。どうかよろしく願います。

**南松本
保育園長**



瀧澤恵美子

私は、平成二十三年四月一日に、なんなんひろばに配属になり、勤労青少年ホーム所長に加え、南部公民館長補佐と南部図書館長を兼務し、四年間お世話になりました。この度、三月末をもって市役所を退職しましたが、その間、松南地区の皆さま方には多大なるご指導、ご協力をいただき、無事勤められましたこと感謝申し上げます。お世話になりました松南地区が町会連合会、公民館、福祉ひろば、地域づくりセンター一体となって連携し、よりよい地域づくりができますことを願っています。最後に、松南地区の益々の発展と皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

お世話になりました



久保田高弘



南部図書館 (左から)
秋山 直子
石原 萌
奈良 将司

平成27年度 町会長役員名簿 (町会長担当協議会を列記)

平成27年4月2日

協議会名	役職名	氏名	町会名
地区町会連合会	(常任理事) 会長	川窪 忠男	宮田西
	(理事) 副会長	川上 進	双葉町
	会計	矢ヶ崎幸一	芳野町
なんぶ未来まつり実行委員会	実行委員長	川上 進	双葉町
	事務局長	中田 清和	南松本一
	会計	矢ヶ崎幸一	芳野町
地区社会福祉協議会	支会長	川窪 忠男	宮田西
	事務局長、会計	コーディネータ 月岡 昭治 (宮田東)	
松南地区福祉ひろば推進協議会	会長	川上 進	双葉町
松南地区防災会	会長	横内 辰男	双葉西

協議会名	役職名	氏名	町会名
松南地区体育協会	会長	岩下儀八郎	宮田東
松南地区子ども会育成会	会長	川井 洋司	宮田中
松南地区環境衛生協議会	会長	犬塚 義浩	南松本二
緑を広げる会 (松本市緑化推進協議会)	会長	渡辺 元秀	双葉南
街を花いっぱいにする会	松南地区会長	渡辺 元秀	双葉南
	松本市常任理事	川窪 忠男	宮田西
明るい選挙推進委員会	代議員	中田 清和	南松本一
地域づくりセンター	センター長	百瀬 智	
松南地区公民館	館長	上條 恒嗣	
	主事	鈴木 賢一	

わがまちのお宝 〈双葉南町会〉

双葉南のお宝といえば、児童公園を囲むように咲く十本の「八重桜」です。ソメイヨシノが花を散らし葉桜になる頃、濃いピンク色の花を付けます。咲くというよりは、枝から湧き上がるように開花する様は心をワクワクさせてくれます。

以前に、ある町会長が就任した際、その記念にと植樹をしたそうです。周りにソメイヨシノは沢山植わっていましたが、「こどもの日」前後に満開になるこの桜を選択したそうです。当時は、団地の階段から公民館にかけて「鯉のぼり」を沢山泳がせていましたので、そのコントラストも見事でした。

ある年には、葉に大量の害虫が発生し、これを役員総出で消毒作業をしたところ、翌日には葉が真っ赤になってしまい全て落下。全員でハラハラしながら見守ったところ、数日後には新芽が吹き、事なきを得たこともあったそうです。(消毒液の希釈濃度を間違えたことが原因のようです。)



この「八重桜」の咲き誇る中、町会の恒例行事でもある「子供まつり」が毎年ゴールデンデンウ

イークで開催されます。この町会にも以前は五十人以上の子供たちが居て、賑やかなお祭りであったようですが、今年の小学生は十四人、少子化には歯止めがかかりません。そこで、昔の子供たちも総参加の「花見」へと変貌を遂げ賑やかに行われます。今年も四月二十九日に開催。初夏を思わせるような爽やかな青空の下、これもまた町会のお宝である一辺が1メートルもある鉄板を使った双葉南名物の焼きそば、大鍋で前日から仕込む豚汁、全員参加のビンゴゲームなどで大いに盛り上がりました。

これからも何より一番の宝である子供たちの喜ぶ声や笑顔を大切にし、また、先輩たちが育てた「八重桜」をしつかりと守りながら、こういった行事が、いつか町会のお宝になっていくようにしたいものです。

(伊藤和彦)

ひと 飯田久江さん



お母様の介護で忙しい日々を送られている飯田さんは、上田市の出身で、松本在住二十一年、御主人の理解や市の介護スタッフのサービスにも助けられ、写真撮影を始め十二年、白鳥に魅せられて現在に至っているそうです。

撮影に出掛ける時期は十二月から北帰行の始まる三月一杯で、早朝六時半から九時頃迄に毎日三百五十枚位の写真をテーマを決めて撮影するそうです。行先は「狐島の田んぼ」「白鳥湖」「御宝田」が中心で、厳寒期、幾度か指の感覚を失った日もあったそうです。「写団イン信州」を主宰され、講演依頼も多い中、何度

となく大きなフォトコンテストに入賞の経歴を持つ飯田さんですが、平成十二年にプロカメラマンへの登竜門である「前田真三賞」を受賞。作品のタイトルは「舞降りた天使たち」です。この賞はテーマを持って継続的に風景の魅力を撮り続ける探究心、自分の作品を分析、選り出す判断力など写真作家として総合的な力量を持つ人を発掘する二年がかりの審査だそうです。

この賞を励みに、白鳥の清楚さ、悲しさを表現するため作風に合ったプリントシート(フレスコジックレ又は漆喰)に焼き付ける方法で、作品は素晴らしい完成度でした。現在「家庭画報」「風景写真」など出版社からの引き合いがあり、将来は大都市中心に講師や「フォト出版社」への作品提供のビジネスの夢も抱いているそうです。

最後にアマチュアカメラマンへのアドバイスとして、テクニクに走る前に日々の健康管理、撮影前の行動計画の準備の大切さを強調されました。

取材中、聡明なお人柄の中に研ぎ澄まされた感性の輝き、鋭さを撮影に打ち込む飯田さんの中に垣間見ました。

(小林 智博)

コラム松南

春を感じさせる小春日和の二月下旬。そろそろ来るな「花粉症」。杉から始まり、中国の黄砂、朝昼と日々の寒暖差などなど…つらい季節の到来です。この花粉症と付き合つて、かれこれ三十数年。今では私の春の風物詩になっています。どこに行くにもティッシュと目薬は必需品。日に日に暖かくなり、桜の開花も待ちどろしいのに何とも複雑な気分です。

花粉症に効果的と聞けば、ありとあらゆる物を試してみました。しかし、飲み薬は副作用の方がつらく、注射も一時的なものでした。このようになかなか、数年前から「鼻うがい」を実践。本格的なものではなく鼻の中を洗う感じですが、朝と夜間毎日取り組みました。その結果、何となく以前に比べると止まらない鼻水や、眠れない鼻詰まりが楽になったように感じます。

それにしても、まだまだ春本番はこれから。桜を始め、咲き誇る花々を横目にアカシアの花が終わるまでもう少しの辛抱。一日も早く夏になつてほしいと願っています。

(増田 薫子)